

内牧小学校

人づくり 夢づくり 地域づくり

阿蘇市立内牧小学校
(校訓) 礼・学・体
平成25年6月28日
第9号
文責 中野 晃

「弁当の日」講演会6/19 食育は性教育、生教育

今回、共同通信社の「弁当の日支援プロジェクト」の協力により九州大学大学院助教佐藤剛史先生をお呼びして講演会を行いました。参加された大人たちも子どもたちも感動、感動で涙を流している人が多くいました。お母さんたちは命がけて君たちを産んでくれたんだよ。生まれてきたことは奇跡であること、生きるために食べているんだよ。食育(弁当づくり)は性教育、生教育であることを熱く語ってくれました。弁当づくりは家庭にとって大変だったと思いますが、子どもたちは弁当づくりの大変さ、親の感謝とともに自信をもったようです。



講演をする佐藤助教

佐藤先生の話聞いて、おかあさんは命がけてぼくを産んでくれたので、おかあさんに御礼を言いたいです。(3年 君)

おかあさんを亡くした5歳のはるちゃんは、毎日おとうさんのごはんを全部作ってすごいと思いました。(4年 さん)

今日はいつもより早く起きて弁当を作りました。おかあさんの大変さがわかりました。(5年 さん)

私の命は私だけの命ではなく、親の一部であることがわかりました。これから自分の命を大切にしていきたいです。(6年 さん)



佐藤助教の話に対する感想発表

児童の感文より

○ぼくは、朝6時に起きました。まずおむすびを作りました。つぎに、ウインナーを切りました。ちょっとじょうずにはきれなかったからさんねんでした。さいごに、たまごやきをつくりました。火を使うのでお母さんにやりかたを覚えてもらったあとは全部自分でできてうれしかったです。おねえちゃんから「ママよりじょうずかも」と言われうれしかったです。また、自分でおべんとうをつくりたいです。(3年 君)

○今日5時45分に起きて弁当を作りました。こうえん会でただ弁当が出来上がればいいのではなく、今ここで生きていること、学校に元気に来られること、弁当が作れるかんきょうすべてに感しゃの心を持って何事もやりとげなければならぬと思いました。(4年 さん)

保護者や地域の方の感想

○忙しい、忙しいと時間に追われる毎日ですが、ゆっくりした時間を作り、子どもと一緒に普段から、命、食について考えていきたいと思いました。食で心や優しさも育つ。とても素晴らしいと思います。(保護者)

○10年ほど前に子どもたちを命がけて産んだことを思い出しました。めんどろだと思っていた弁当の日でしたが、子どもたちは意外と楽しく悪戦苦闘しながら取り組んでいました。食に興味を持ち、課題が生まれ続けていくことができればいろいろな力がつくと思います。(保護者)

○弁当の日と聞き、最初は愛情弁当かと思いましたが、自分で作って食べる日という事で良いことだと思います。1回目より2回目と作る喜び、友達のを見て自分も今度は！とチャレンジすると思います。(地域の方)